

The Skye in June

推薦メッセージ

監訳者： 諫早 佳子
(翻訳者)



本書”The Skye in June”は、スコットランドのグラスゴーから1950年代のアメリカ西海岸サンフランシスコに移住した、マクドナルド一家の物語です。夫と妻、そして娘が4人。著者本人を投影していると思われる末っ子のジューンは、小さなころから不思議なヴィジョンが見えたり、他人のオーラが見えたりと、特殊な能力を持っていて、それゆえまわりとはなかなかうまくやっていけません。しかも一家の問題はそれだけではありません。妻や娘たちに対する夫の無理解や暴言、娘のドラッグへの依存や結婚前の妊娠、そしてジューンはカトリックの学校をやめさせられてしまいます。

でも、この物語はただ暗いだけではありません。一家の娘たちが青春を過ごす、1960年代のアメリカ西海岸の若者の風俗が生き生きと描かれ、1960年から1970年代のアメリカに憧れた世代の人たちにとっては懐かしく、とても楽しめると思います。また、それまではアメリカでも発言力の低かった女性たちが声を上げ始めた時代でもあり、家庭内暴力に対してはっきりNOをつきつけるジューンの母にも共感できます。そして、ラスト近く、母の意外な秘密が明らかに・・・

スコットランドとアメリカ、二つの国にまたがる波乱万丈の一家の物語、ページを繰る手が止まりません。

英語は、最初はスコットランド方言が含まれているので少し難しく感じられるかもしれませんが、しかしスコットランドとはいえ、むしろ正当な英語圏であり、辞書を調べればわかることです。それよりも、カトリックの知識や60年代当時のアメリカ西海岸の事情などの知識が必要かもしれません。でもそれを調べることもまた、翻訳の楽しさの一つでしょう。特にアメリカが大好きな方、ご応募お待ちしております。